

昭和館館報

令和5年度

口 絵		(6)Wi-Fi提供	16
ごあいさつ	1	2 オーラルヒストリーの制作	16
フロア構成	2	IV 啓発広報等事業	17
年間主要行事	3	1 広報活動	17
令和5年度事業概要	4	(1)広報資料の作成及び発送	17
I 展示事業	4	(2)広報と掲示及び掲載	17
1 常設展示	4	(3)昭和館だよりの発行	18
(1)常設展示室の概要	4	(4)戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業	18
(2)展示資料の入れ替え	4	①事業の概要	18
2 巡回特別企画展の開催	4	②事業の実施状況	18
(1)第43回巡回特別企画展		(5)第22回昭和館作文コンクール	21
「くらしにみる昭和の時代 奈良展」	5	(6)第16回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール	21
(2)第44回巡回特別企画展		2 『昭和のくらし研究』の刊行	22
「くらしにみる昭和の時代 宮城展」	5	3 昭和館運営専門委員会の開催	23
3 貸出キット	6	4 昭和館運営有識者会議の開催	23
4 紙芝居定期上演会	7	5 インターンシップ	23
5 実物資料の収集と保存	7	6 関係施設等連携会議の開催等	24
(1)実物資料の収集	7	(1)第24回、第25回会議について	24
(2)実物資料の保存と補修	7	(2)3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」	24
6 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作	7	(3)移動教室	
II 図書映像資料等閲覧事業	8	「シベリア虜囚の祈り 抑留画家 佐藤清の足跡」への協力	24
1 図書文献関係	8	(4)巡回特別企画展の相互協力	24
(1)運用管理	8	V 特別企画展等の開催及び概要	25
①閲覧室及び書庫の管理	8	1 特別企画展「歴史探偵 半藤一利展」	25
②レファレンス・サービス(参考調査業務)	8	2 昭和館開館25周年記念特別企画展	
③利用ガイドの発行	8	「昭和を駆け抜けた超特急	
④展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内	8	～燕(つばめ)、そして新幹線へ～」	26
⑤ホームページ	9	3 1階ロビーでの資料展示	27
⑥蔵書点検	9	4 写真展	
⑦利用状況	10	「子どもたちの戦中・戦後」	27
(2)データ管理	11	5 写真展	
(3)保存管理	11	「失われゆく昭和の仕事	
(4)業務研修	11	- 戦中・戦後の街頭風景 - 」	28
2 映像・音響関係	11	6 資料公開コーナー	29
3 ニュースシアター	11	参 考	
4 収蔵資料	12	1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和5年度)	30
(1)図書資料の収蔵状況	12	2 令和5年度利用者実績	31
(2)映像・音響資料の収蔵状況	13	3 常設展示室入場者数	31
III 関連情報提供事業	14	4 来館団体御芳名	32
1 運用管理	14	5 第22回昭和館作文コンクール	33
(1)システム運用管理	14	厚生労働大臣賞、昭和館館長賞受賞作品	34
(2)データベース運用管理	14	6 第16回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介	35
(3)デジタルアーカイブの運用	15	7 施設概要	36
(4)ホームページ運用管理	15	8 令和5年度寄贈者御芳名	38
(5)SNSの活用	16		

口 絵
外観写真





7階 常設展示室「統制下の暮らし」



6階 常設展示室「廃墟からの出発」



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階ニュースシアターにて
紙芝居定期上映会



特別企画展
「歴史探偵 半藤一利展」
(令和5年7月15日～9月3日)



昭和館開館25周年記念 特別企画展
「昭和を駆け抜けた超特急 ～燕（つばめ）、そして新幹線へ～」
(令和6年3月9日～5月6日)



巡回特別企画展
「くらしにみる昭和の時代 奈良展」
奈良市美術館 第1展示室
(令和5年6月15日～6月24日)



昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館 合同巡回展
「くらしにみる昭和の時代 宮城展」
せんだいメディアテーク 5階ギャラリー3300
(令和5年12月9日～12月19日)



寄贈資料の一部と著書を紹介した半藤文庫を新設 (図書室内)
(令和5年7月)



写真展「子どもたちの戦中・戦後」
 (令和5年3月18日から5月7日)



昭和館開館25周年記念 写真展
 「失われゆく昭和の仕事 ―戦中・戦後の街頭風景―」
 (令和6年3月12日から6月30日)



1階ニュースシアターにて
SPレコード鑑賞会
(令和5年12月3日)



戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業
昭和館・しょうけい館・首都圏中国帰国者支援・
交流センター三館合同講話会・交流会
(令和5年10月15日)

ご あ い さ つ



昭和館は、昭和の時代に国民が経験した戦争とその時代の国民生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、戦争の記憶と国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月に開館、令和6年3月には25周年を迎えるとともに、これまでの総入館者数は675万人を数えるに至りました。

さて、令和5年度は、猛威を振るった新型コロナウイルスの感染症も落ち着き、通常の生活が戻ってきたところであります。

3月から5月には、特別企画展「時代をまとう女性たち」、写真展「子どもたちの戦中・戦後」、また、7月から9月には、特別企画展「歴史探偵 半藤一利展」を開催したほか、常設展示室、映像・音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナー、夏休み3館めぐりスタンプラリー、小学生・中学生の作文コンクール、中学生・高校生のポスターコンクール、奇数月の紙芝居上演会の実施、紀要「昭和のくらし研究」発刊などを実施し、さらに「次世代の語り部」事業では、現在、育成を終えた18名の語り部が、館内での定期講話会に加えて、小・中学校や自治体の平和イベント等へ赴いて講話を行いました。

一方で、昭和館も例年参加してきたイベント「こども霞ヶ関見学デー」は、オンラインでの参加となりました。

また、巡回特別企画展については、6月に奈良県（奈良市）、12月に宮城県（仙台市）で開催し、宮城県では「しょうけい館」・「平和祈念展示資料館」との3館連携企画展を同一会場で実施することができました。

さらに、本年3月から5月にかけて、特別企画展「昭和を駆けぬけた超特急～燕（つばめ）、そして新幹線へ～」を開催するとともに、写真展「失われゆく昭和の仕事－戦中・戦後の街頭風景－」（6月末まで）を開催することができ、それぞれ1万人を超える入場者をお迎えできました。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、令和5年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

今後とも若い世代の皆様に昭和の戦争の記憶と戦中・戦後の様々な国民の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、更に魅力ある企画展の開催と様々な観点からの情報提供に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年7月

昭 和 館
館 長 伍 藤 忠 春

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・資料公開コーナー

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

令和5年 3月11日～5月7日	特別企画展を開催 「時代をまとう女性たち」
3月18日～5月7日	写真展を開催 「子どもたちの戦中・戦後」
	紙芝居定期上演会（奇数月第4土曜日） 次世代の語り部定期講話会（原則毎月第1日曜日）
6月15日～6月24日	第43回巡回特別企画展を開催 「くらしにみる昭和の時代 奈良展」
6月21日	令和5年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月26日～6月28日	常設展示室の展示替え（休室）
7月15日～9月3日	特別企画展を開催 「歴史探偵 半藤一利展」
7月15日～9月3日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
8月2日～8月3日	こども霞が関見学デー（オンライン参加）
8月15日	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」
12月9日～12月19日	第44回巡回特別企画展（3館連携）を開催 「くらしにみる昭和の時代 宮城展」
令和6年 1月5日～1月15日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
2月16日	令和5年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
2月21日～3月5日	図書室の蔵書点検・資料整理を実施（休室）
2月29日	第24回昭和館運営有識者会議を開催
3月9日～5月6日	開館25周年記念特別企画展を開催 「昭和を駆け抜けた超特急～燕（つばめ）、そして新幹線へ」
3月12日～6月30日	開館25周年記念写真展を開催 「失われゆく昭和の仕事―戦中・戦後の街頭風景―」
3月27日	開館25周年記念日 終日常設展無料開放 先着250名に粗品贈呈

令和5年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。

(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示室の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年頃から、昭和20年8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

令和5年度は、6月26日(月)から6月28日(水)までの3日間にかけて、資料交換作業を実施した。また、令和6年1月5日(金)から1月15日(月)までの11日間、常設展示室を休室し、展示ケース内への演示台設置、「終戦直後の日本」コーナーのモニター改修工事、資料交換作業を実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

令和5年度は、次の通り実施した。

(1) 第43回巡回特別企画展

「くらしにみる昭和の時代 奈良展」

開催期間 令和5年6月15日(木)～6月24日(土)

*6月19日(月)は休館日

会場 奈良市美術館 第1展示室

(奈良県奈良市二条大路南一丁目3番1号ミ・ナーラ5階)

主催 昭和館

協力 一般財団法人奈良県遺族会および日本遺族会第3ブロック

後援 奈良県 奈良県教育委員会 奈良市 奈良市教育委員会

奈良新聞社 NHK奈良放送局 奈良テレビ放送

内容 戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるため、奈良県ゆかりの実物資料・写真資料等を通じて、困難が多かった時代における人々のくらしを紹介した。

入場者数 3,473人(約386人/日)

(2) 第44回巡回特別企画展

昭和館・しょうけい館・平和祈念展示資料館 3館合同巡回展

「くらしにみる昭和の時代 宮城展」

開催期間 令和5年12月9日(土)～12月19日(火)

会場 せんだいメディアテーク 5階ギャラリー3300

(宮城県仙台市青葉区春日町2-1)

主催 昭和館 しょうけい館 平和祈念展示資料館

協力 一般財団法人宮城県連合遺族会および日本遺族会
第1ブロック

後援 宮城県 宮城県教育委員会 仙台市 仙台市教育委員会

河北新報社 朝日新聞社仙台総局 共同通信社仙台支社

時事通信社仙台支社 毎日新聞仙台支局

読売新聞東北総局 産経新聞仙台支局

NHK仙台放送局 TBC東北放送 仙台放送

ミヤギテレビ KHB東日本放送 エフエム仙台

内容 戦後生まれの世代が大多数を占める今、戦中・戦後の労苦について国民への理解を深め、次の世代へ語り継ぐため、東京の3つの国立の施設が合同で展示をおこなった。

昭和館は、戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるため、宮城県ゆかりの実物資料・写真資料・映像資料等を通じて、困難が多かった時代における人々のくらしを紹介した。

入場者数 8,668人(約788人/日)



奈良展



宮城展

3 貸出キット

令和5年度の貸出状況は、次の通りである。

<貸出先> (貸出実施順)

(学校) 6校

雲仙市立千々石中学校／札幌市立中央中学校／栄町立安食台小学校／利島村立利島小・中学校／横浜市立矢部小学校／鷗友学園女子中学高等学校

(地方公共団体) 13自治体

横須賀市市民生活課／神奈川県福祉子どもみらい局福祉部生活援護課／江戸川区立小松川図書館／川口市役所総務部総務課／上尾市役所／館林市役所／龍ヶ崎市立図書館／台東区役所総務部総務課／市川市役所生活支援課／越谷市総務部総務課／伊奈町秘書広報課／千代田区地域振興部国際平和・男女平等人権課／台東区役所総務部総務課

(一般団体) 10団体

綾瀬市遺族会／徳島県遺族会／浜松市遺族会／大森コラボレーション／とよま生活協同組合／連合富山／庄原市戦没者遺族会／チャレンジャーズ江古田プロジェクト／知多市遺族会／蔵持地区まちづくり委員会

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居を使い、紙芝居師が実演する上演会を奇数月第4土曜日に実施している。入場者の状況は以下の通りである。

上演月	入場者
令和5年 5月27日	71人
7月22日	81人
9月23日	47人
11月25日	68人
令和6年 1月27日	69人
3月23日	95人
合計	431人

5 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

令和5年度は収蔵庫の整理に注力し、資料収集については最小限にとどめた。収蔵機能が改善し収蔵スペースが確保された段階で、資料収集を再開する予定である。

収蔵資料数は次表の通りである。(令和6年3月末現在)

寄贈資料	46,274点
購入資料	14,646点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
合計	64,163点

(2) 実物資料の保存と補修

実物資料の保存環境を改善するため、収蔵庫の調湿機能の向上に努めている。資料の保存容器を中性紙箱に差し替えるとともに、紙資料の酸化劣化を防ぐため、順次ポスター資料から脱酸処理を実施している。令和5年度は82点のポスター資料の修復および脱酸処理をおこなった。

6 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作

巡回特別企画展の開催を予定している都道府県に関連する、戦中・戦後の労苦体験をされた方々の証言を聞き取りし、撮影・制作した「オーラルヒストリー」を巡回特別企画展会場で上映している。

令和5年度は、巡回特別企画展の開催地である奈良県と宮城県に関連した「オーラルヒストリー」を撮影した。

作品タイトル	証言者
遺児のくらしと父への報告の旅	辻本 太藏
二度出征した父、硫黄島での遺骨収集	永澤庄一郎

II 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等閲覧に供している。

利用頻度が高い基本図書や新刊書、総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは様々なテーマに沿った資料紹介を行っている。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

令和5年度に対応したレファレンスは249件で、特に8月に多かった。内容は多岐にわたるが、家族や親族の軍歴、戦時中の暮らしや街並みに関する写真集、放送・出版関係者からの時代考証に関するレファレンスが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイド等に反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

平成27年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？ 昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2～3カ月ごとに資料の入れ替えを行っているが、令和5年度は巡回特別企画展を開催した奈良県、宮城県を含め6県の関連資料を紹介した。

継続企画以外でも、令和5年度は、「昭和の大相撲」「制限されていった戦時下の音楽」の他、生誕90年「藤子不二雄～AとF～」、「箱根駅伝 東京箱根間往復大学駅伝競争第100回大会記念」等、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄に関連する図書等を紹介した。

また、特別企画展及び写真展、資料公開コーナー等の内容と連動した図書・雑誌の公開も行っており、特別企画展「時代をまとう女性たち」「歴史探偵半藤一利展」、写真展「子どもたちの戦中・戦後」、資料公開コーナー「ブギのリズムに乗って」「働くこと・装うこと ～職業制服の歴史～」等の関連資料を紹介した。

令和5年7月15日（土）から9月3日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布し、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また同期間、小学生を対象にしたテーマ別の「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。特別企画展「歴史探偵 半藤一利展」に関連したワークシートの他、過去に作成した「戦時下の衣服」「学童疎開」「空襲」「くらしの道具」「動物園と戦争」とあわせて6種類を配布したところ、約750枚配付し360枚の提出があった。ワークシートに挑戦した子どもたちには、図書室オリジナル缶バッジ等の記念品を贈呈した。

令和6年2月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した展覧会「シベリア虜囚の祈り～抑留画家・佐藤清の足跡～」に関連して、関連本コーナーを設ける等、館内外との協力・連携を図った。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、「ちょこっと所蔵資料」と題して開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内でのテーマ別の資料紹介についても随時情報を更新し、利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

「資料寄贈のお願い」のページでは、収集したい資料例をあげ、広く資料の寄贈を呼びかけている。

⑥ 蔵書点検

令和6年2月21日（水）から3月5日（火）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。4階開架及び地下書庫内の閉架図書を

重点的に点検、必要に応じて蔵書の移動を行い、破損が著しい図書の修理や製本を行った。

⑦ 利用状況

令和5年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
令和5年4月	763	151	595
5月	874	150	606
6月	937	191	787
7月	1,005	170	674
8月	1,663	211	778
9月	1,108	177	652
10月	817	188	784
11月	898	174	678
12月	873	182	658
令和6年1月	1,117	181	678
2月	865	154	700
3月	1,020	220	849
合計	11,940	2,149	8,439

令和5年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	108	2,116
哲学	16	5
歴史	957	276
社会科学	1,672	815
自然科学	12	50
技術・工学・工業	300	339
産業	151	85
芸術	138	453
言語	12	4
文学	825	88
合計	4,191	4,231

- ・ 図書の利用内訳は、「社会科学」分野では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。

- ・ 雑誌の利用内訳は、週刊誌及び娯楽誌等の一般雑誌「総記」分野が最も多く、「社会科学」分野では図書と同様に国防・軍事関係が多かった。

(2) データ管理

収蔵図書の書誌及び目次データは、随時点検、追加入力および修正作業を進めている。令和5年度は令和4年度に受け入れた図書・雑誌1,770冊の書誌及び目次データの入力と装備を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、令和5年度は489冊の破損本を修理した。

劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供等、図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に例年職員業務研修に参加している。

令和5年度は日本図書館協会主催「第109回全国図書館大会」に1名参加した他、「図書館総合展」にはオンライン視聴参加し、業務の向上に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、ゴールデンウィーク期間（令和5年4月29日～5月7日）や夏休み期間中には、小・中学生向けワークシートの配布を実施し、参加者にはしおり等の記念品を贈呈した。

写真展「失われゆく昭和の仕事―戦中・戦後の街頭風景―」の開催にあわせ、5階映像・音響室入口前の大型モニターにて、下駄屋や毒消し売り、チンドン屋等の街頭で見かけられた仕事に関する映像を紹介した。

また、第89回資料公開コーナー「大野修一撮影写真 復興へ 岐阜・愛知」の開催にあわせ、大野修一氏が撮影した写真301点の整理を完了させ、館内アーカイブ及び昭和館デジタルアーカイブでの提供を開始した。

加えて次世代の語り部講話会にあわせSPレコード資料を紹介する「SPレコード鑑賞会」を開催した。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画と新作のオーラルヒストリーを毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館 懐かしのニュースシアター」では、令和5年度

は224本のニュース作品と18作品のオーラルヒストリーを上映し、多くの来館者から好評を得ている。

また、令和6年2月7日（水）から13日（火）に平和祈念展示資料館が九段生涯学習館で開催した特別展示「シベリア虜囚の祈り～抑留画家・佐藤清の足跡～」の連携企画として、シベリアからの引揚の様子を伝えるニュース映像を紹介し、連携をはかった。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

令和5年度は前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や部隊史、少年少女雑誌・児童向け図書等を中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（令和6年3月末現在）

国民生活関係図書	74,020冊
戦争に関する基本的図書	24,174冊
独自資料	35,980冊
その他	11,689冊
合計	145,863冊

<令和5年度の主な受入資料の内訳>

○ 国民生活関係	1,793冊
・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等 『週刊少国民 昭和21年3月3日号』 『横浜大空襲と戦後の疎開生活』 『事變下の生活と栄養』等	
○ 戦争に関する基本的図書	340冊
・ 太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等 『昭和天皇の地下壕』 『相模陸軍飛行場関係写真集 2』 『未来へと語り継ぐ日立の戦災 戦争体験集』等	
○ その他	2冊
・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等 ・ 定期購読誌 『文藝春秋』『中央公論』『軍事史学』『丸』	

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。令和5年度は、社会福祉法人愛児の家が所蔵していた写真他を入手し、館内アーカイブ及び昭和館デジタルアーカイブでの提供に向けて整理作業を進めている。

<令和5年度の主な受入資料>

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| (1) 記録写真 | 3, 383点 |
| 師岡宏次氏撮影写真（昭和10年～40年頃の東京の写真） | |
| 愛児の家所蔵写真（終戦直後から昭和30年代の戦災孤児の写真） | |
| 宮城県大崎市の鳴子のこけし祭やミスこけしの写真（昭和30年頃撮影） | |
| 善隣高等商業学校（昭和25年廃校）の昭和18年の卒業記念アルバム | |
| 鎌倉市立大船小学校の児童の集合写真（昭和32年撮影） 他 | |
| (2) 音響資料 | 40点 |
| 個人寄贈のピクチャーレコード 他 | |

<令和6年3月末現在の公開データ件数>

	データ件数
静止画資料	34, 826件
動画資料	3, 558件
音響資料	14, 970件
計	53, 354件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内110カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌等）及び類似施設等の関連情報を提供している。

令和5年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は476,277件、月平均約39,690件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
令和5年4月	2,779	2,095	25,478	4,828	2,175	32	37,387
5月	2,076	2,419	25,122	6,356	3,122	65	39,160
6月	4,148	3,275	24,087	7,104	2,753	78	41,445
7月	2,255	1,667	20,778	7,142	2,833	60	34,735
8月	2,954	2,413	36,444	10,340	4,499	81	56,731
9月	3,286	3,651	18,792	6,367	2,584	94	34,774
10月	3,980	3,058	22,845	6,891	3,349	70	40,193
11月	3,080	1,415	22,172	7,236	3,985	66	37,954
12月	2,687	2,577	21,489	6,443	2,962	57	36,215
令和6年1月	3,017	2,386	21,233	7,188	2,471	74	36,369
2月	2,729	1,998	25,072	8,804	2,924	73	41,600
3月	2,826	2,556	22,698	9,001	2,526	107	39,714
合計	35,817	29,510	286,210	87,700	36,183	857	476,277

(2) データベース運用管理

図書室及び映像・音響室では、収蔵資料のデジタル化、記録資料のデータベース化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

【総合データベース】

○ 図書資料データベース

図書室が収蔵する、図書、雑誌の書名・著者名・雑誌名等の書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力し、検索ができる目録データベース。図書、雑誌以外では、地図、海図についても図名の他、地域や海域からの検索することができる。図書、雑誌、地図、海図の全ての資料の横断検索も可能である。

○ 映像・音響資料データベース

映像・音響室が収蔵する写真、映像及び音響資料(S Pレコード)の資料情報(タイトル、年代、作曲者名等)をデータベース化し、検索・閲覧(視聴)できるデジタルアーカイブ。写真、映像、音響資料の横断検索も可能である。

【個別データベース】

○ デジタルライブラリー

年鑑と雑誌をデジタル化し、検索・閲覧できる昭和館オリジナルのデータベース。収録された雑誌間での横断検索も可能である。

現在閲覧できる資料は「中央公論」「婦人公論」「写真週報」「文藝春秋」「改造」「防空新聞」「大毎小学生新聞」「少国民新聞(東日版)」「スポーツニッポン」「教材ニュース」「文化ニュース」等

○ 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム

防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデジタル化し、検索・閲覧できるオリジナルデータベース。キーワードによる横断検索も可能である。

(3) デジタルアーカイブの運用

昭和館が所蔵する写真、映像、実物資料等の情報をインターネット上で外部公開するため、令和5年4月1日から「昭和館デジタルアーカイブ」を公開した。

アクセス総数は866,453件、月平均約72,200件である。

(4) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っていたが、令和5年4月1日よりリニューアルした昭和館ホームページを公開した。常設展示室の展示替えをはじめ、特別企画展や巡回特別企画展、写真展

や資料公開コーナー等の展示案内、紙芝居の上演会やSPレコード鑑賞会といった催し物の案内に加えて、次世代の語り部事業についても定期講話会や語り部派遣等の最新情報発信のため、内容更新を行った。また、昨年引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する情報を掲載した。

令和5年度のアクセス数は次のとおりであった。

	アクセス数	月間平均アクセス数	開館時 (or 導入時) からの累計
ホームページ	149,451	12,454	4,553,091

(5) SNSの活用

広報の一環として、X (旧Twitter)、Facebook、YouTubeでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

令和6年3月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

X (旧Twitter) 閲覧者数	Facebook閲覧者数	YouTube視聴回数
225,016	21,524	2,313,268
ポスト数	投稿数	
247	231	

(6) Wi-Fi提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために1階ロビー、3階研修室、4階図書室、5階映像・音響室、7階・6階常設展示室で提供をしている。

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

令和5年度は、テレビ放送の黎明期にテレビ人形劇に携わった方など7名の聞き取りを行い、7作品を制作した。

令和5年度の制作作品は以下のとおりである。

作品タイトル	証言者
疎開と空襲に翻弄された日々	上蕨 博
つらい時代のなか見出した人形劇の可能性	伊東万里子
テレビ放送の開拓期とテレビ人形劇の発展	伊東万里子
少女たちの見た仙台空襲	太田 早智子 佐々木 孝子
母と共に 戦災孤児たちと「愛児の家」で暮らす	石綿 裕
航空隊から進駐軍向けのダンスホールのウェイターに	増田 博
命がけで空襲を記録し守り抜いた父、石川光陽	石川 令子

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、教育委員会、東京特別区、全国の老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付した。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和くらし研究（紀要）」も併せて送付した。

令和5年度は、東京都の市区校長会の協力を得て、同年6月に23区9市1,061校の小学校5年生（千代田区は全校生徒）及び前年度に来館した小・中学校に昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより40号」、「貸出キットちらし」、「次世代の語り部講話派遣ちらし」等を送付し、来館促進を図った。

また、令和5年6月に全国の公立小・中・中等教育学校に「昭和館だより40号」、「貸出キットちらし」を送付した。

さらに10月に、令和4年度に来館した中学校・高等学校に「中学生・高校生ポスターコンクール」のちらし等を送付し周知を図った。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館事業内容のPRのため、都営地下鉄九段下駅4出口、東京メトロ東西線2番ホーム、東京メトロ半蔵門線3番ホームの電飾掲示板に掲示し、事業内容のPR活動を行った。

さらに、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかどく」、東京観光バリアフリー情報ガイド、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報等に当館の紹介記事を掲載した。

その他、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、東京新聞、埼玉新聞、日本教育新聞等に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」40号を、令和5年5月に発行し、(1)に記載した教育関係機関へ送付した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した人々が高齢化する中、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後のくらしの上での様々な労苦を次世代に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を育成する事業を平成28年度から開始した。

1期生から3期生まで募集を行い、月1回のペースで3年間の研修を実施し、「次世代の語り部」としての委嘱を受けた者は講話活動を行っている。

② 事業の実施状況

ア 令和5年度は昨年度に引き続き、月1回の定期講話会をはじめ、小・中学校や自治体等からの要請を受け、講話活動を行った。

イ 2名の次世代の語り部が新原稿を作成した。館内審査を経て合格となり、令和6年1月の定期講話会より新原稿での講話を開始した。

講話のテーマは以下のとおり。

	テーマ	対象
1	戦中の小学生	小学校高学年から中学生
2	学校生活と子どもたち（戦前・戦中編）	小学校6年生から中高生
3	軍事郵便を聞く	中学生から一般
4	戦争と学生	大学生から一般
5	軍国少年の戦中・戦後～終戦時13歳の今吉孝夫さんの体験を中心として～	小学校高学年 中学生から一般
6	空白の3年8か月～天気予報と戦争～	中学生から一般
7	学童疎開～戦時下の親元を離れての集団生活～	小学校高学年
8	白米が憧れだった頃～戦中・戦後の人びとの米への強い思い～	一般
9	ぼくの家にも戦争があった	小学校中学年から中学生
10	沖縄の光と影～今を支える戦争の記憶～	小学校高学年から中学生
11	戦災孤児たちの願い～もしも魔法が使えたら～	小学校6年生から中学生
12	戦時下の中学生～学生生活と学徒勤労働員～	小学校6年生から一般
13	残された家族～家族を戦争で失くした人たちの思い	小学校5年生から一般
14	国策紙芝居で知る銃後の生活	小学校6年生から一般
15	聞こえない人と戦争	小学生から中学生程度

16	熱田空襲下の学徒動員体験記～航空機製造へ舵を切った愛知時計電機～	大学生から一般
17	戦中の子どもの学校生活～昭和8年生まれの子どもたち～	小学校高学年
18	フミちゃんと沖縄戦～それでも私は生きる～	大学生から一般
19	【新原稿】 少女の戦中・戦後の暮らし～島本京子さんの体験から	小学校6年生から中学生
20	【新原稿】 戦争と動物－戦争で犠牲になった動物たち－	小学校6年生から一般

ウ 定期講話会

毎月第一日曜日に昭和館ニュースシアターで定期講話会を実施した。各回2名の次世代の語り部が講話を行い、参加者数は以下のとおり。

回	開催日	参加者数
第23回	令和5年 4月2日	16人
第24回	5月7日	14人
第25回	6月4日	24人
第26回	7月2日	18人
第27回	8月6日	57人
第28回	9月3日	28人
第29回	10月1日	18人
第30回	11月5日	20人
第31回	12月3日	27人
第32回	令和6年 1月7日	20人
第33回	2月4日	10人
第34回	3月3日	14人
参加者数合計		266人

エ 派遣講話

学校や自治体等からの要請を受けて派遣講話を行っている。実施状況は以下のとおりである。

派遣先	派遣件数	参加者数
学校関係	41	3,180
自治体関係	11	292
その他	5	243
合計	57	3,715

<派遣先> (派遣順・昭和館開催を含む)

【学校関係】世田谷区立砧南小学校 6 年生／岐阜市立長森中学校 3 年生／豊橋市立南部中学校 3 年生／栄町立安食台小学校 6 年生／多摩市立諏訪小学校 6 年生／川崎市立塚越中学校 2 年生／川崎市立高等学校社会科巡検／荒川区立第三峡田小学校 6 年生／開智日本橋学園中学高等学校 1 年生／杉並区立済美小学 6 年生／葛飾区立上平井小学校 6 年生／千葉県立関宿高等学校 2 年生／横浜市立小坪小学校 6 年生／杉並区立第六小学 6 年生／江東区立第七砂町小学校 6 年生／相模原市立夢の丘小学校 6 年生／荒井学園高岡向陵高等学校 2 年生／東久留米市立第五小学校 6 年生／杉並区立東田小学校 6 年生／八王子市立甲ノ原中学校 1～3 年生／中央区晴海中学校 1 年生／大田区立大森第十中学校 2 年生／東村山市立東村山第三中学校 2 年生／葛飾区立東金町中学校 1 年生／白百合学園小学校 6 年生／葛飾区立一之台中学校 2 年生／大田区立貝塚中学校 1 年生／世田谷区立上祖師谷中学校 2 年生／三郷市立鷹野小学校 6 年／福島大学附属小学校 6 年生／東村山市立東村山第七中学校 2 年生／川崎市立西菅小学校 6 年生／江東区立小名木川小学校 6 年生／新宿区立落合第六小学校 6 年生／千代田区立千代田小学校 6 年生／船橋市立前原小学校 6 年生／都立荒川工科高等学校 2 年生／東京都立桜修館中等教育学校 3 年生／三浦市立南下浦中学校 1 年生／横浜市立義務教育学校霧が丘学園中学校 1 年生

【自治体関係】千代田区平和使節団／台東区役所／習志野市立東習志野図書館／市原市立姉ヶ崎公民館／狛江市岩戸児童センター／市原市国分寺公民館／めぐろシティカレッジ／青梅市教育部社会教育課国際理解講座／北教組石狩支会（北海道）／豊島区／市原市立国分寺公民館（市原市立国分寺台小学校 6 年生）／渋谷区文化振興課

【その他】一般財団法人 徳島県遺族会／宮崎県遺族連合会／一般財団法人 地域力研究所／茅ヶ崎市聴覚障害者協会／岡山県井原市遺族会

オ 昨年度に引き続き、講話の充実と「次世代の語り部」としての知識や意識の向上をはかるため、他施設の伝承者との交流や語り部間の意見交換を行う等、フォローアップ研修を実施した。

カ しょうけい館、首都圏中国帰国者支援・交流センターと連携し、三館合同講話会・交流会を実施した。

開催日：令和 5 年 10 月 15 日（日）

参加者数：76 名

(5) 第22回昭和館作文コンクール

昭和館または巡回特別企画展を見学および、「次世代の語り部」講話を聴く、あるいは昭和館 YouTube でオーラルヒストリー（証言映像）を視聴した小・中学生を対象に実施した。

今年度は、令和6年1月7日（日）消印有効で締め切り、団体応募が9校248作品、個人が15作品（小3～6・中1～3）、計263作品の応募があった。内容の題材は見学が194作品、オーラルヒストリーが41作品、次世代の語り部講話が28作品であった。

2月に厚生労働大臣賞・昭和館館長賞、優秀賞8作品を決定した。3月上旬に賞状及び賞品の送付、3月中旬にホームページで各賞を発表し、厚生労働大臣賞及び昭和館館長賞の作品を公開した。

(6) 第16回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、あなたが感じた戦中・戦後の暮らし、昭和館を見学して、ポスターにしてみようを募集したところ、合計180作品の応募があった。

審査の結果、富山第一高等学校 深田 楓さんの作品が最優秀賞に（別掲）、優秀賞（別掲）に8作品、佳作に10作品が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」昭和館紀要『昭和のくらし研究』第22号を令和6年3月に刊行した(平成15年度から年1回刊行)

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第22号 目次	
大学合唱団の戦後史—うたごえ運動・大学紛争・高度経済成長— ・・・・・・・・・・・・・・・・名古屋大学人文学研究科准教授	河西秀哉
軍政期における同郷者メディアとしての『奄美』と奄美出身者 —一九四六年の奄美群島渡航禁止をめぐって— ・・・・鹿児島大学法文学部附属 「鹿児島の近現代」教育研究センター特任助教	中嶋晋平
空襲による図書館罹災とその対策の一つとしての図書疎開 ・・・・・・・・・・・・・・・・昭和館図書情報部	財満幸恵
戦後世代の語り部育成事業を終えて ・・・・・・・・・・・・・・・・次世代の語り部事業担当	坂尻麻子
昭和館所蔵 米国国立公文書館映像資料目録(4) ・・・・・・・・・・・・・・・・昭和館図書情報部	折原里枝

昭和のくらし研究第22号



3 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(令和6年3月31日時点 50音順、敬称略)

委員長	赤木完爾	(慶應義塾大学名誉教授)
委員	宇野裕	(株式会社トーカイ社外取締役監査等委員)
〃	加納正弘	(元厚生労働省大臣官房審議官(援護担当))
〃	鈴木淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	関沢まゆみ	(国立歴史民俗博物館副館長)
〃	松井かおる	(元江戸東京博物館学芸員)
〃	山田邦夫	(外務省大臣官房総務課公文書監理室レコードマネージャー)
〃	和田幹夫	(全国小学校社会科研究会会長板橋区立上板橋第四小学校校長)

※令和5年12月6日宮脇岑生委員長退任。

4 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに24回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(令和6年3月31日時点 50音順・敬称略)

委員長	波多野澄雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委員	江田肇	(一般財団法人日本遺族会常務理事・埼玉県遺族連合会会長)
〃	加藤聖文	(国文学研究資料館准教授)
〃	神津カナ	(作家・エッセイスト)
〃	鈴木淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	藤田琢治	(目黒区立第九中学校教諭)
〃	増田弘	(立正大学名誉教授)
〃	松井かおる	(元江戸東京博物館学芸員)

5 インターンシップ

高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ(職業体験)」(ハローワーク飯田橋より依頼)は、コロナ禍以降、依頼がなくなっている。今後は、依頼があった場合は受け入れられるよう準備する。

6 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館、平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省社会・援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

- (1) 第24回会議を令和5年6月2日（金）に開催
第25回会議を令和6年2月2日（金）に開催
- (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：令和5年7月15日（土）～9月3日（日）
参加者数：5, 155人
- (3) 移動教室「シベリア虜囚の祈り 抑留画家 佐藤清の足跡」への協力
開催期間：令和6年2月7日（水）～2月13日（火）
主 催：平和祈念展示資料館
協 力：昭和館、しょうけい館
場 所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー
- (4) 巡回特別企画展の相互協力
 - ・ 宮城県における巡回特別企画展は、しょうけい館、平和祈念展示資料館と同じ会場で同時開催し、連携を図った。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展「歴史探偵 半藤一利展」

「歴史探偵」と自らを称し、激動の昭和史と正面から向かい合った作家半藤一利氏の遺稿・遺品等の寄贈を受けたことを記念して、関連資料を紹介するとともに、半藤氏の足跡をたどる特別企画展を開催した。

開催期間：令和5年7月15日（土）～9月3日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

後援：千代田区 千代田区教育委員会

特別協力：株式会社文藝春秋

入場者数：11,067人（252人/日平均）

<展示構成>

プロローグ

- I. 少年時代・学生時代
- II. 文藝春秋社員時代
- III. 昭和の語り部として



2 昭和館開館25周年記念特別企画展

「昭和を駆け抜けた超特急 ～燕（つばめ）、そして新幹線へ～」

新幹線が登場する以前、「超特急」と呼ばれた人々の憧れる特急列車があった。その特急列車「燕」は昭和5年10月、東京―神戸間を約9時間で結び、従来の同区間の所要時間を2時間以上も短縮させたことから、当時では画期的な特急列車として活躍した。

本展覧会では、超特急「燕」が誕生した昭和初期から「夢の超特急」新幹線の登場までの軌跡を紹介する。

開催期間：令和6年3月9日（土）～5月6日（月・祝）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：21,947人（422人／日平均）

<展示構成>

プロローグ 特別急行列車の黎明期

I. 超特急「燕」の誕生

II. 戦時体制と鉄道

III. 復興―「夢の超特急」への道―

エピローグ



3 1階ロビーでの資料展示

1階ロビー資料公開コーナーのテーマに合わせて、実物資料の展示を実施した。令和5年6月29日（木）から12月27日（水）にかけて、「オキュパイド・ジャパンの人形」と題したミニ展示を、令和6年1月16日（火）から7月28日（日）にかけて、「ままごとおもちゃ」と題したミニ展示を開催した。

また、月ごとに資料を入れ替えながら、兵庫県西脇市在住の人形作家村上しま子さんの人形作品を展示している。

4 写真展

「子どもたちの戦中・戦後」

開催期間：令和5年3月18日（土）から5月7日（日）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：学校生活や子どもたちの遊んでいる様子、焼け跡でたくましく生きる戦災孤児の姿等の写真を通し、戦中から戦後にかけて、子どもたちを取り巻く社会がどのように移り変わったのかを紹介した。

入場者数：11,961人

(約266人/日)



5 写真展

「失われゆく昭和の仕事 一戦中・戦後の街頭風景」

開催期間：令和6年3月12日（火）から6月30日（日）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：昭和の時代、多種多様な仕事が生まれては衰退し、街頭から消えていった。今では見かけることが少なくなった昭和の仕事を紹介した。

入場者数：6,056人
（約336人／日）
※令和6年3月末時点



6 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する写真・映像資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーにコーナーを設けて、資料を随時公開している。

令和5年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第88回	第15回中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品展示	令和5年4月4日（火） ～6月30日（金）
第89回	新収蔵資料紹介 「大野修一撮影写真 復興へ 岐阜・愛知」	令和5年7月1日（土） ～9月30日（土）
第90回	ブギのリズムに乗って	令和5年10月1日（日） ～12月27日（水）
第91回	働くこと・装うこと ～職業制服の歴史～	令和6年1月5日（金） ～3月31日（日）

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和5年度)

	常設展示室							合計	映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースシアター	総計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとバス	無料								
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612		
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673		
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084		
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460		
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422		
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459		
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386		
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215		
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724		
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151		
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579		
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092		
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319		
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244		
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295		
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311		
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056		
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600		
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	78,745	38,110	21,449	149,538	174,407	462,249		
平成30年度	24,890	4,060	34,244	1,818	5,572	70,584	31,176	17,626	141,383	156,586	417,355		
令和元年度	22,094	3,227	30,812	1,730	4,655	62,518	32,285	14,095	115,478	121,684	346,060		
令和2年度	8,117	805	3,792	661	1,695	15,070	10,116	4,573	33,389	7,966	71,114		
令和3年度	8,714	1,366	10,939	848	2,047	23,914	12,246	5,832	31,583	8,888	82,463		
令和4年度	14,955	2,728	26,768	1,361	4,638	50,450	19,239	9,351	52,320	12,055	143,415		
令和5年度	19,416	3,186	28,402	1,669	5,908	58,581	27,841	11,940	51,025	19,783	169,170		
合計	652,776	71,340	629,452	25,993	125,551	1,505,112	767,142	436,157	1,594,637	2,452,460	6,755,508		

2 令和5年度利用者実績

(単位：人)

	常設展示室	映像・音響室	図書室	ニュースシアター	特別企画展等	合計	特別企画展等内訳
令和5年 4月	3,196	1,495	763	611	9,706	15,771	4/1 (3/11~5/7) 特別企画展期間 4/1 (3/18~5/7) 写真展期間 4/2 語り部部定期講話会
5月	5,453	2,236	874	1,087	3,758	13,408	5/7 語り部部定期講話会 ~5/7 特別企画展期間 ~5/7 写真展期間 5/27 紙芝居定期上演会
6月	6,042	2,203	937	1,040	3,497	13,719	6/4 語り部部定期講話会 6/15~6/24 奈良県巡回特別企画展期間
7月	5,119	2,507	1,005	1,169	2,862	12,662	7/2 語り部部定期講話会 7/15~ 特別企画展 7/15 ~ 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 7/22 紙芝居定期上演会
8月	5,213	3,335	1,663	2,187	7,321	19,719	8/6 語り部部定期講話会 特別企画展期間 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間
9月	3,934	1,968	1,108	1,144	1,115	9,269	9/3 語り部部定期講話会 ~9/3 特別企画展期間 ~9/3 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 9/23 紙芝居定期上演会
10月	3,843	1,705	817	1,062	94	7,521	10/1 語り部部定期講話会
11月	6,712	2,751	898	1,614	88	12,063	11/5 語り部部定期講話会 11/25 紙芝居定期上演会
12月	6,026	1,981	873	1,281	8,735	18,896	12/3 語り部部定期講話会 12/9~12/19 宮城県巡回特別企画展期間
令和6年 1月	3,179	2,326	1,117	1,187	89	7,898	1/7 語り部部定期講話会 1/27 紙芝居定期上演会
2月	5,906	2,856	865	1,394	10	11,031	2/4 語り部部定期講話会
3月	3,958	2,478	1,020	6,007	13,750	27,213	3/3 語り部部定期講話会 3/9~5/6 特別企画展期間 3/12~5/6 写真展期間 3/23 紙芝居定期上演会
合計	58,581	27,841	11,940	19,783	51,025	169,170	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合(%)
58,581人	有料 24,271人	高・大学生	3,186人	5.4
		一般	21,085人	36.0
	無料 34,310人	小・中学生	28,402人	48.5
		視察者等	4,261人	7.3
		心身障害者	1,353人	2.3
		未就学児	294人	0.5

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合(%)
361校	小学校	283校	78.4
	中学校	60校	16.6
	高校	6校	1.7
	専門学校	4校	1.1
	大学	8校	2.2

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
4月21日	三重県立高等学校	118名	12月1日	市川市立鬼高小学校	143名
4月27日	中野区立令和小学校	110名	12月5日	板橋区立成増小学校	100名
5月18日	品川区立芳水小学校	100名	12月12日	東久留米市立第五小学校	102名
5月23日	世田谷区立砧南小学校	169名	12月14日	和光市立新倉小学校	111名
5月24日	江戸川区立西葛西小学校	127名	12月15日	江東区立南陽小学校	114名
5月25日	八王子市立第七小学校	103名	12月20日	板橋区立成増ヶ丘小学校	143名
5月30日	江戸川区立松江小学校	100名	12月21日	練馬区立高松小学校	107名
6月1日	昭和町立常永小学校	109名	1月18日	板橋区立紅梅小学校	120名
6月2日	江戸川区立葛西小学校	101名	1月23日	中央区立晴海中学校	174名
6月14日	埼玉大学教育学部附属小学校	103名	1月24日	暁星小学校	112名
6月15日	横浜市立川上北小学校	105名	1月26日	小平市立小平第二中学校	152名
6月20日	白岡市立西小学校	116名	2月1日	白百合学園小学校	114名
6月20日	江東区立枝川小学校	128名	2月8日	世田谷区立烏山中学校	161名
6月21日	府中市立府中第三小学校	112名	2月9日	八王子市立第十小学校	123名
6月21日	ふじみ野市立亀久保小学校	103名	2月16日	練馬区立北町小学校	104名
6月29日	葛飾区立道上小学校	110名	2月22日	田園調布雙葉学園小学校	121名
6月29日	さいたま市立芝川小学校	109名	2月28日	品川区立品川学園	116名
7月5日	足立区立千寿第八小学校	102名	3月5日	カリタス小学校	102名
7月6日	江戸川区立東葛西小学校	105名			
7月8日	小平市立小平第三小学校	116名			
7月11日	船橋市立坪井小学校	203名			
8月31日	目黒区立大岡山小学校	115名			
9月6日	中野区立平和の森小学校	117名			
9月8日	横浜市立潮田小学校	102名			
9月8日	府中市立府中第六小学校	114名			
10月5日	葛飾区立上千葉小学校	113名			
10月31日	日野市立豊田小学校	148名			
11月2日	小平市立小平第五小学校	103名			
11月9日	大田区立高畑小学校	129名			
11月10日	江東区立豊洲北小学校	150名			
11月17日	相模原市立大野南中学校	228名			
11月21日	東村山市立久米川小学校	106名			
11月21日	江東区立数矢小学校	118名			
11月22日	横浜市立本郷中学校	163名			
11月28日	杉並区立高井戸第二小学校	147名			
11月28日	西東京市立保谷第一小学校	100名			
11月29日	足立区立千寿常東小学校	103名			
11月30日	江戸川区立第二葛西小学校	132名			

紙面の都合により、100名以上で来館された団体のみ掲載しております。

5 第22回昭和館作文コンクール

厚生労働大臣賞

ぼくにもできる平和につながる道

千代田区立和泉小学校5年

田中 颯人

ぼくが昭和館に行ったきっかけは、小学一年生の時に夏休みの自由研究で千代田区の戦争について考えたからです。なぜ千代田区の戦争について考えたのかというと、自宅の近くにある公園に大きなお墓みたいな石碑があつて母に聞いたところ、「戦災殉難者慰霊碑」と教えてくれました。そして慰霊碑は戦争で亡くなってしまった人たちを慰めるために建てられたものと知りました。そこで千代田区の戦争について検索したところ、千代田区戦跡マップというのがあったので、そこを巡ることにしました。

まずは鎌倉橋欄干傷跡から千鳥ヶ淵墓苑に向かっている最中に昭和館の目の前を通りました。昭和館について母から戦争を考える展示がしてあるということを教えてもらいました。

昭和館を見学すると7階と6階では戦中の国民の暮らしと戦後の国民の暮らしという展示がしてあり、体験コーナーでは防空壕体験や防空頭巾をかぶったりしました。

そしてぼくはこの夏に「この世界の片隅に」という小説を読みました。読んだ理由は自分が通っている小学校にロシアからの転校生が来たことで、ロシアがウクライナに侵攻しているニュースを思い出し、改めて戦争について考えたいと思ったからです。そこでぼくは一年生のころに行った昭和館のことを思い出し、もう一度行ってみようと思いました。

小学五年生になって改めて展示を見ると、戦争によって食べ物が配給制になって、子供も、軍事工場で働くなど普通の生活が送れなくなる中で必死に苦しい生活に耐えながらそれでも空襲などで死んでしまう人々の様子を見て、涙がこみ上げてきました。

だから防空壕体験は一年生の時よりずっと戦争の恐ろしさが感じられました。そして、初めて挑戦した井戸の水くみ体験では、一日使うための水をくむのがどんなに大変だったかということを知りました。当時は多くの成人男性が出征していたので、ぼくのような小学生が水くみをしたり、家族のために働いていたと知り、今の暮らしがどんなに幸せかと思いました。同時に家の事を父や母がやってくれていることが当たり前だと思っていた自分はずかしくなりました。そして家族みんなでご飯を食べられることがすごく幸せなことだと分かりました。

そして、戦後、家や家族、友人を失い、食料も少ない中で、必死に働いて世界有数の国を築いた日本人はすごいと思いました。

昭和館を見学して改めて気付いたことは、ぼくには戦争を止める力はないけど、戦争を伝えること、忘れないことが、小学生のぼくにもできる平和につながる道だということです。

だからぼくは、これからも戦争を忘れないために昭和館を訪れ、昭和館を多くの人に教えてあげたいと思います。それがぼくにもできる平和につながる道と信じて。

昭和館館長賞

歴史から学ぶということ

板橋区立志村坂下小学校 6年生

竹内あかり

その手紙を読んだ時、私ははっと息をのみました。「いつまでも、いつまでも、お元気で。」他愛もない、そんなあいさつは七十八年前の日本では、永遠の別れを告げる言葉になり得たのだと知りました。

九月、社会科見学で訪れた昭和館には、太平洋戦争中、海軍が編成した「神風特攻隊」の搭乗員となり、若くして命を落としていった若者たちの手記が展示されていました。日本はアメリカに圧倒的な国力の差を見せつけられ、戦争を始めてしばらくすると、もはやまともには戦えなくなっていました。

そこで海軍が考え出したのが、飛行機や小型艇、潜水艇を操縦したまま、アメリカの軍艦に体当たりして破壊を狙う「特攻」でした。爆弾を落とすよりも命中率が上がることなどから考え出されました。敗色が濃厚となった日本が逆転を夢見て編み出した戦法で、搭乗員は生きて帰ってくることを考えない残酷なものでした。

日本では負けが続いて、多くのパイロットたちが戦死していたので、特攻に参加した多くの搭乗員が、新たに志願したり、召集されたりした十～二十代の若者たちでした。特攻は兵士たちが自発的な思いで参加するということになっていましたが、実際には拒否できないものでした。例えば、上官は白い紙を兵士たちに配って、特攻隊に参加したいか、したくないかを書かせます。

でも、この時に「参加しない」と書けば、「非国民」「軍人の恥だ」とののしられ、暴力を振るわれます。周りの兵士からも糾弾されるため、誰もが「参加したい」と書いていたのです。当時は「お国のために死ぬ」ことを子供の頃から教え込まれ、そう思い込まされた事情もあります。

自由や平和にあふれているように見える今の日本で、こんなことが再び起きるのでしょうか。私は油断すれば起きると思います。太平洋戦争が始まるわずか二十年ほど前は、「大正デモクラシー」と呼ばれる時期で、西洋の音楽やファッションが盛んで、民主主義を求める世論が高まった時代だったそうです。

それが欧米に負けまいと、植民地を広げて国を強くしようとしたことで、戦争の泥沼にはまり、やがては自分たちの首を絞めることになったからです。

平和は努力しなければ、維持できないものです。少しでも油断をすれば安易に戦争をしかねません。その時、最もつらい形で犠牲になるのは、特攻隊員のような若者たちです。

まずは、過去の歴史を振り返り、長い目で見れば戦争によって、人々が幸せになることはないことを学ぶことから始めるべきだと思います。もちろん、簡単な事ではありませんが、そのような思いを多くの人が持っていれば、戦争を支持する指導者は選ばれません。だからこそ、民主主義は大切だと思います。

6 第16回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介

<入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
富山第一高等学校
深田 楓
【戦中の生活】



優秀賞
横浜市立義務教育学校西金沢学園中学部
鈴木 心晴
【ただいま】



優秀賞
新宿区立西早稲田中学校
秋永 橘香
【勤労働員 心の中】



優秀賞
広島県立沼南高等学校
渡邊 花
【安全な場所まであと少し】



優秀賞
横浜市立本郷中学校
稲村 百華
【昭和と現代の街なみ】



優秀賞
富山第一高等学校
今泉 史緒
【昭和の給食】



優秀賞
富山第一高等学校
椎名 舞歩
【昭和の家庭の洗濯】



優秀賞
目黒区立第八中学校
稲垣 初枝
【昭和の洗濯】



優秀賞
富山第一高等学校
川端 里桜
【昭和の料理風景】

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本龍太郎厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

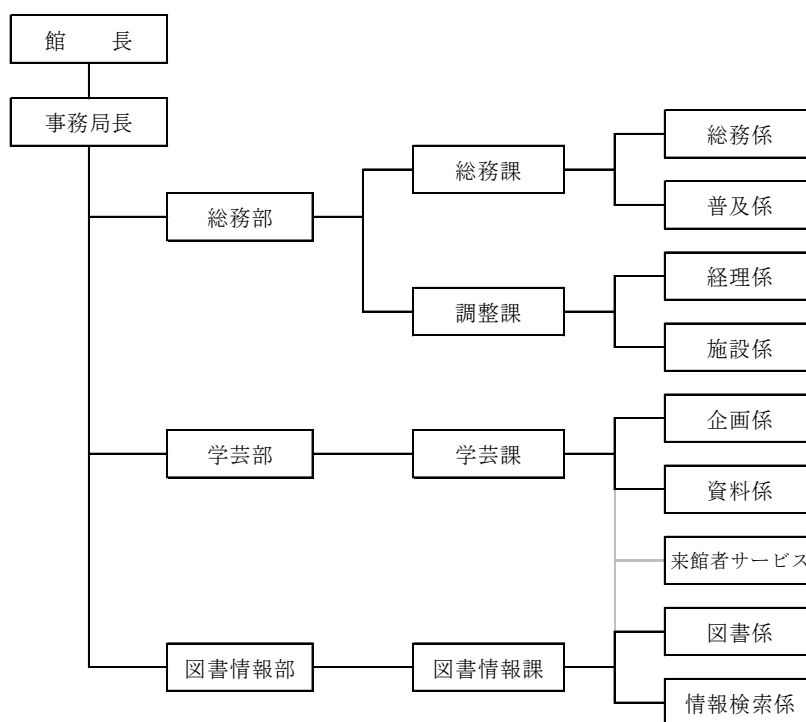
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施設

面積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組織



8 令和5年度寄贈者御芳名

本年度に資料をご寄贈くださいました方のお名前を記してお礼といたします。

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名	都道府県	寄贈者名	都道府県	寄贈者名
北海道	千歳歯舞諸島居住者連盟	東京都	すみだ郷土文化資料館	福井県	福井県立歴史博物館
〃	北海道博物館	〃	世田谷区政策経営部政策企画課区史編さん担当	〃	福井県立若狭歴史博物館
青森県	八戸市博物館	〃	世田谷区立郷土資料館	長野県	松本市立博物館
宮城県	仙台市歴史民俗資料館	〃	戦争と萬葉集研究会	岐阜県	岐阜市歴史博物館
〃	多賀城市教育委員会	〃	総務省政策統括官(恩給担当)恩給管理官室	静岡県	沼津市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館	〃	台東区教育委員会	〃	浜松市博物館
〃	登米市歴史博物館	〃	たばこと塩の博物館	〃	袋井市文化協会
〃	宮城白萩の会中央支部	〃	玉川大学教育博物館	愛知県	安城市歴史博物館
〃	村田町歴史みらい館	〃	千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室	〃	瀬戸蔵ミュージアム
山形県	米沢市上杉博物館	〃	東京家政学院生活文化博物館	〃	東海市の戦争を記録する会
茨城県	土浦市立博物館	〃	東京都公文書館	〃	豊田市戦没者遺族連合会
〃	日立市郷土博物館	〃	東京都写真美術館	〃	名古屋市博物館
〃	日立市生活環境部文化・国際課	〃	特定非営利活動法人 わだつみのこえ記念館	三重県	式年遷宮記念 神宮美術館
〃	水戸市総務部総務法制課総務係	〃	豊島区立郷土資料館	〃	四日市市立博物館
埼玉県	川越市立博物館	〃	日本女子大学平塚らいでう研究会	滋賀県	滋賀県平和祈念館
〃	埼玉県平和資料館	〃	日本大学企画広報部広報課	京都府	南丹市日吉町郷土資料館
〃	埼玉県立嵐山史跡の博物館	〃	日本舞台音響家協会	〃	立命館大学国際平和ミュージアム
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会	〃	東村山ふるさと歴史館	大阪府	大阪歴史博物館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館	〃	物流博物館	〃	日本生命財団
〃	国立歴史民俗博物館	〃	文京ふるさと歴史館	兵庫県	明石市立文化博物館
〃	市立市川歴史博物館	〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室	〃	加西市教育委員会 生涯学習課 市史文化財係
〃	野田市郷土博物館	〃	港区総務部 総務課 人権・男女平等参画係	〃	神戸空襲を記録する会・関係資料編集グループ
〃	船橋市郷土資料館	〃	港区立郷土歴史館	〃	姫路市市史編集室
〃	歴史認識問題研究会	〃	明治大学史資料センター	奈良県	(財)奈良県遺族会
東京都	荒川ふるさと文化館	神奈川県	IICA海外移住資料館	和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	板橋区立郷土資料館	〃	愛川町郷土資料館	〃	和歌山市立博物館
〃	板橋区立美術館	〃	大磯町郷土資料館	島根県	松江歴史館
〃	江戸文物研究所	〃	神奈川県立神奈川近代文学館	岡山県	岡山空襲展示室
〃	矯正協会 矯正研究室	〃	川崎市市民ミュージアム	広島県	NPO法人 ANT-Hiroshima
〃	北区飛鳥山博物館	〃	公益財団法人 馬事文化財団 馬の博物館	〃	旧被服支廠の保全を願う懇談会
〃	清瀬市企画部シティプロモーション課市史編さん室	〃	戦時下の小田原地方を記録する会	〃	呉市海事歴史科学館
〃	クマヒラ	〃	平塚市博物館	〃	呉市企画部海事博物館
〃	公益財団法人 水交會	〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館	愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
〃	公益財団法人 通信文化協会 博物館部(郵政博物館)	〃	横浜市歴史博物館	福岡県	大牟田の空襲を記録する会
〃	公益財団法人 野球殿堂博物館	〃	横浜市史資料室	〃	福岡市総合図書館 文学・映像課 古文書係
〃	公益財団法人 海原会	〃	横浜都市発展記念館	〃	福岡市美術館
〃	公益財団法人 偕行社	新潟県	長岡市役所	大分県	宇佐市教育委員会社会教育課平和ミュージアム建設準備室
〃	公益財団法人多摩市文化振興財団 パルテノン多摩	〃	新潟日報社 読者局 出版企画部	〃	大分県立先哲史料館
〃	厚生労働省	〃	歴史教育史研究会	〃	大分市歴史資料館
〃	国際武器移転史研究所	富山県	富山市郷土博物館	〃	空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会
〃	公益財団法人 中国残留孤児援護基金	〃	富山市民俗芸村	宮崎県	みやざき歴史文化館
〃	一般社団法人 日本郷友連盟	石川県	石川県教育委員会生涯学習課	沖縄県	沖縄県平和祈念資料館
〃	しょうけい館	〃	石川県立歴史博物館	〃	ひめゆり平和祈念資料館

映像・音響資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	社会福祉法人愛児の家

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
岩手県	大谷 洋樹
〃	松島 和雄
宮城県	柏倉 茂
千葉県	前田 茂男
東京都	朝倉 榮次
〃	梶原 真悟
〃	加藤 佳生
〃	神戸 澄雄
〃	櫻井 隆
〃	佐藤 之彦
〃	柴田 卓
〃	菅谷 雅彦
〃	鈴木 顯介
〃	高橋 幸子
〃	高橋 透
〃	半藤 末利子
〃	日比 恆明
〃	牧島 美恵子
〃	松為 周信
〃	松岡 義昌

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
東京都	柳本 教仁
〃	山下 徹
〃	山地 悠一郎
〃	渡辺 祥子
神奈川県	赤峰 糸子
〃	大橋 文香
神奈川県	川田 正美
〃	毛塚 元
〃	佐々木 和子
〃	中澤 伸二
〃	山口 文子
新潟県	山田 秀広
石川県	河崎 倫代
大阪府	小林 邦雄
奈良県	古藤 尚子
広島県	矢野 文恵
山口県	池田 敬子
福岡県	岩元 千エ
〃	品川 洋子
長崎県	井原 和洋

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
岩手県	松島 和雄
千葉県	紅谷 佳緒理
東京都	高橋 幸子
〃	豊国 潤
〃	西山 一美
〃	樋口 敬一
〃	山田 由香
神奈川県	酒井 敦

都道府県	寄贈者名
神奈川県	佐々木 和子
〃	佐藤 一穂
〃	長崎 ゆみ子
〃	師岡 文男
兵庫県	田中 實
奈良県	古藤 尚子
山口県	池田 敬子

資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
東京都	楊木文祥

昭和館館報 第25号 (令和5年度)

令和6年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03 (3222) 2577